

**PICK UP** **仕事もプライベートも満足する環境を**

**WORK LIFE BALANCE**

総務省は、テレワークなどICTを活用した働き方改革を進め、職員一人一人が高い意欲を持って最大限に能力を発揮できるような職場環境を目指しています。



総務省大臣官房秘書課職員係長  
併任 働き方改革推進室  
**黒木 香織** 平成18年入省  
KUROKI KAORI

**総務省の働き方改革**

総務省は、これまででもオフィス改革やテレワークの推進等に積極的に取り組んできましたが、省内の働き方改革をさらに加速させるべく、平成30年1月、総務省職員有志メンバーで構成される働き方改革チームが結成されました。同年11月には、第2期チームが結成され、働き方改革に関する既存の制度の更なる活用や、新たな業務改善方策について検討等を行っています。

私は、この働き方改革チームの事務局として、チームメンバーの議論のサポート等を担当しています。

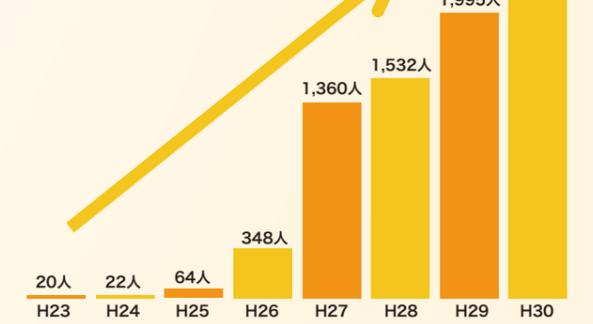
働き方改革の取組には、幹部職員の理解が必要不可欠です。総務省では、働き方改革チームの提言を踏まえ、昨年からは幹部による「働き方宣言の作成」や「定時退庁放送による呼びかけ」を実施していますが、これらの取組が、幹部を含めた省内全体の意識改革や仕事改革へと繋がり、ワークライフバランスを実現させる土壌が醸成されつつあります。



**ワークライフバランス支援制度・ICTツールの活用**

また、育児や介護等により時間制約がある中、業務成果を出しながら活躍する職員や、配偶者出産休暇等を利用する男性職員も増加しています。国家公務員の両立支援制度はとて充実しており、子が3歳になるまで取得できる育児休業や家族の介護を行うための休暇等、多くの選択肢が用意されていますが、総務省ではこれらの制度の他、テレワークも積極的に推進しており、昨年は職員の8割以上（業務の性質上その実施が困難な職員を除く。）が、テレワークで業務を行いました。Web会議システムなどのICTツールの活用も進んでいます。

**テレワーク利用実績（年度別）**



**Message**

8歳と6歳の二児の母で、現在、服務担当の他、働き方改革も担当しておりますが、私自身の育児等の経験を業務に活かすことも出来、充実した日々を過ごしています。また、両立支援制度を活用し、フレックスタイム制を利用して子供の習い事がある曜日は退庁時間を早めています。可能な限りテレワークも活用しており、先日も午前は入学式に出席、午後は自宅で業務を行いました。このように柔軟な働き方を実現できる環境はかなり整ってきており、また上司や同僚の理解・支援に日々、感謝しています。

**仕事も大事、けどプライベートも大事**

勿論、時間制約がある職員に限らず、すべての職員が、自分の生活を大事にしながら生き生きと働き続けられる職場環境を実現することが重要です。業務の見直しや、効率化を図り、仕事の質を向上させながらプライベートも充実させる職員も増えてきました。

仕事と生活の充実を叶える環境は、職員自身で作ることができます。総務省に入省し、「やりがいある仕事」を続けつつ、「仕事も大事、けどプライベートも大事」という欲張りなライフスタイルを実現してみませんか？

**女性の育児 × 仕事 育児と仕事の相乗効果**



平成19年入省  
**瀬戸山 瑞穂**  
SETOYAMA MIZUHO

**Q. どのように育児と仕事を両立していますか？**

**A.** 小さな子供がいると、急病など不測の事態が起きることもしばしば。そのため、スケジュールや自分の抱えている業務の状況を上司と共有し、限られた時間内で集中して早めに仕事を仕上げるように心がけています。また、国家公務員は両立支援制度が充実しています。私の場合は、育児時間を取得し、子供のお迎えに間に合うように帰宅しています。子供の通院や学校行事・PTA活動などの際には、テレワークも大いに活用し時間を有効に使っています。

**Q. 育児経験を経て、仕事への影響はありましたか？**

**A.** 育児から復帰する際には、自分に両立なんてできるかな…と不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、いざ仕事に育児にと追われる日々が始まると、仕事中は家での嫌なことを忘れ、また家に帰って子供の相手をしていると仕事でのストレスを忘れ…ととてもバランスのいい生活が送れていることに気がきました。また、ママ職員同士の繋がりも強く、仕事のことや子供のことを相談しあえる仲間がいることは心強いです。

**男性の育児 × 仕事 仕事・育児・介護を支える大黒柱**



平成21年入省  
**米澤 克則**  
YONEZAWA KATSUNORI

**Q. 男性の育休制度を利用した感想を教えてください**

**A.** 0歳と3歳の娘がいる二児の親で、二度、育休制度を利用しています。妻の両親は共働きで子育てに関して頼ることが難しく、また、私の親は体調が悪く介護も必要、さらに、3歳の娘が保育園・幼稚園に入れないなか、次女の出産予定日も近づいてくるなど、まさに育児と介護の板挟みでした。そこで、一度目の育休は一月でしたが、二度目は思い切って一年間にし、産まれてくる子は妻が担当、3歳の娘と父の介護は私が担当と、役割分担しました。現代の大黒柱として、仕事・育児・介護を支える柱を目指したいです。

**Q. 就活生に向けたメッセージをお願いします！**

**A.** 育休だけでなく、テレワーク（在宅勤務）や、勤務時間の調整など、働き方も工夫できるので、公務員を目指して挑戦されている皆さんには、入省してからも、どんどん新しいことに挑戦して、家庭と仕事を充実させて欲しいです。

**自分時間 × 仕事 多忙は当たり前！時間は自分で作ろう！**



平成25年入省  
**山本 彩**  
YAMAMOTO AYA

**Q. ワークライフバランスに向けてどのような工夫をしていますか？**

**A.** 仕事には、手を使って量をこなす作業的なものと、頭を使って質にこだわる創造的なものの2種類があります。係員時代の多くは前者です。膨大かつ煩雑な作業に追われる日々が待っています。しかし、作業は効率化が可能です。実践例として、仕事の総量と範囲の見える化により体系立てて頭を整理し、仕事に追われる状態から精神面での脱却をしたり、明確な5W1Hと短文を意識した伝え方により人の時間を奪わない・奪わせないといった行動面での工夫等を行っています。10秒で終わる仕事にちんたら何分もかける必要はないのです。また、集中して勉強したり、まとめて作業したい場合など仕事の性質によっては、テレワークやフレックスで環境や時間を変えることも有効です。こうして自ら作り出した時間で私は、今後を見据え、夜間のビジネススクールに通っています。様々な職業・年齢の人が集まる環境は楽しく、自らの社会人としての在り方を見直すよい刺激にもなっています。